

佐久間陽介様（薬剤師会実習生見学、日本大学）

私は在宅医療を受ける患者様というのは予後の短い人が中心であり、寝たきりで会話するのも困難な人ばかりだろうと考えていました。今回、往診に1日同行させていただき、受け答えをしっかりとできる方も多く、医療者の方々が患者様と色々なお話をされているのが印象的でした。

患者様の生活状況や症状は様々であり、患者一人一人にあわせた医療を提供するためには医師や看護師、薬剤師など多職種が連携し、情報を共有する事が必要であるということが分かりました。また、先生方と患者家族が治療や介護について相談されている様子を見て、患者家族との連携も大切であると感じました。

在宅医療に薬剤師が関わることで、コンプライアンスを上昇させることができる。またそれだけではなく、薬学的疑義への気づきや、処方を提案することで医師をサポートしていく必要もあると感じました。薬局のカウンターでも、服薬管理を行うことが難しい患者には、訪問薬剤管理をすすめ、医師に提案することも必要だろうと思いました。

宮城達雄様（薬剤師会実習生見学、昭和薬科大学）

薬学生実務実習の一環として往診に同行させていただきました。

在宅医療を行うにあたり、薬剤師が介入することの意義を理解していなかったのですが、生活状況や服薬状況を把握することで、医師へ処方を提案できるという大きな役割があることを知りました。

実際にグループ診療を初めて見て、医師・看護師・薬剤師がそれぞれの役割を果たすことで、一軒あたりにかかる時間が限られている中でも効率的に医療を提供することができていると感じました。今回見学させていただいたお宅では、ご家族の方が積極的に在宅医療に参加している様子でした。患者さん自身のケアをすることに加え、ご家族の負担を軽減することも在宅医療の大きな役割であり、この先在宅患者が増加すると思われる中で必要な医療体制だと思いました。

私自身、在宅医療に関する知識が浅く、現場を見学させていただいて初めて手厚い治療を受けられると知りました。在宅医療を受けたいという需要に応えられる薬局やクリニックを増やしていくことが、患者様の人生を豊かにする方法の1つではないかと思います。

医師に同行する薬剤師というのは、これまで私が知っていた薬剤師像とは全く異なり、在宅医療の現場は薬剤師が大きく活躍できる新たなフィールドだと感じました。